

祝詞

【神棚の拝み方】

壹 手を洗い、口を漱いで、お供えものをし、神前にすわる
貳 軽くおじぎをする
参 二回深くおじぎをする（二拝）
肆 祓詞を奉上する
伍 神棚拝詞を奉上する
陸 二礼、二柏手、一拝する
漆 軽くおじぎをして、座を立つ

【一切成就の祓い】

極めて汚濁き事も
滞り無ければ穢濁きはあらじ
内外の玉垣清し淨しと白す。

（極めて汚いことも、そこに滞るから汚いのである。）

ゆえに厄が滞ることがなかったならばこの世の中は、
罪、穢れ、厄いなどがなくなりきれいなところになる。）

(057)

【大祓祝詞】

・ ・ ・ ・ ・ 遺る罪は在らじと、
祓え給い清め給う事を、
高山の末、短山の末より、
佐久那太理に落ちたぎつ、
速川の瀬に坐す瀬織津比咩と言う神、
大海原に持ち出でなむ。
此く持ち出で往なば、
荒塩の潮の八百道の、
八百道の潮の八百会に坐す速開都比咩と言う神、
持ち可可呑みて、
此く可可呑みてば、
氣吹戸に此す氣吹戸主と言う神、
根国、
底国に氣吹き放ちてむ。
此く氣吹き放ちてば、
根国、
底国に坐す速佐須良比咩と言う神、
持ち佐須良い失いてむ。
此く失いてば、
天皇が朝廷に仕え奉る官 官の人等を始めて、
天下四方には、
今日より始めて、

罪つみと言いう罪つみは在あらじ・・・

【祓詞はらいことば】

掛かけまくも畏かしこき伊邪那岐大神いざなぎのおおかみ、
筑紫つくしの橘たちばな小戸おとの阿波岐原あわぎはらに御禊祓みそぎはらいえ給たまいし時ときに
生なりませる祓戸はらいへどの大神等おおかみたち、
諸もろの禍事罪まがごとつみけがれ穢あ有あらんをば、
祓はらいえ給たまい清きよめ給たまえと白もうす事ことを聞きこし食めせと恐かしこみ
恐かしこも白もうす。

（伊邪那岐大神が筑紫の日向の橘小戸の阿波岐原で御禊祓みそぎはらいいをされたときに生まれた祓戸の神々よ、さまざまな罪穢つみれを清めてください。）

【天津祝詞】

高天原爾神たかあまはらにかむづまります留坐須るまじ神漏岐神漏美乃命かむろぎかむろみのみこと以知氏もちうぢ
皇親神伊邪弉岐乃命すめみおやかむいざなぎのみこと
筑紫乃日向乃橘乃つくしのひむかのたちばなの小門乃阿波岐原爾をどのあはぎはらの
禊祓比給布時爾生坐世留みそぎはらいたまふときにあれませる祓戸乃大神等はらいへどのおおかみたち
諸々乃祸事罪もろもろのまがごとつみけがれ穢あ乎を
祓閉はらいへ給たまひ清きよめ給たまえ布登申須事乃由乎ふのぼるとまおすことのよしを
天津神地津神八百萬神等共爾あまつかみくにつかみやおよろずのかみたちとも
天乃斑駒乃耳振立氏あめのふちこまのみみふりたてて
聞食世登きこしめせと畏美畏美母白須かしこみかしこみもまをす

【神棚拝詞】

此れの神床に坐す、

掛けまくも畏き、

天照大御神、産土大神等の大前を拝み奉りて

恐み恐みも白さく。

大神等の広き厚き御恵みを辱なみ奉り、

高き尊き神教えのまにまに、

明き直き正しき真心をもちて、

誠の道に違ふことなく

負い持つ職業に励ましめ給い、

家門高く、

身健やかに世のため人のために尽さしめ給えと

恐み恐みも白す。

【古いお札から新しいお札にとりかえるときの祝詞】

此れの神棚に、

斎い鎮め奉る、

掛けまくも畏き、

天照大御神を始め奉り、

八百萬神等の御札の御前に謹み敬いて白さく、

言わまくも畏けれど、

今は御棚も狭きに成り給えければ、

古き御神札を除き、

新しき御神札を斎い奉り、

古きは、

浄き忌火を以ちて焼き納め奉らんとし、

札代の幣帛献り、

平けく安けく聞こし食して、

夜の守り日の守りに守り給い幸わえ給えと、

畏み畏みも白す。

【病氣平癒の祝詞】

掛巻も畏き（崇敬又は氏神さまの名前）大神の大前に（この祝詞を唱える人の姓名） 畏み 畏みも白さく、

（病氣平癒を祈願する人の姓名）い、

去にし（病氣にかかった年月）の頃より、

故無くも病を得て悶熱懊悩みつづ有るを以ちて、

親族家族打ち寄り、

夜と無く昼と無く、

胸 差し押え肩押し摩り、

治る医師も其の為の限りを尽し、

与うる薬も其の奇しき極みを施せども、

更に其の験有ること無く、

所為便知らに、

此 処に詣で、

御饌御酒種々の幣帛を供え奉らくを平けく安らけ

く聞こし

食し給いて、

其の煩い苦しむ悩みをば、

一日も早く、

大御恵みを幸え給いて、

燃ゆる火に水打ち注ぐが如く、

速雨の塵打ち洗うが如く、

身内燦然に残る方無く、

癒し給い直し給いて、

速やかに元の如く、

健全に楽しき身と成し幸え給えと、 恐み 恐みも

白す。

（恐れ多い神様の前に申しあげますことは、其が、去る何年何月頃から病氣にかかっており、家族や親族の人たちも、日夜、心配して、医者も薬も限りをつくしましたが、一向に良くなりませんので、神様の前に、たくさんの供え物をたてまつり、病氣平癒のお参りすることを、お聞き入れくださいまして、一日も早く病氣が治り、もとのように健やかな身体となりますように。）

【家内安全の祝詞】

八十日は有れども、

今日の生日の足日に、

掛巻も畏き、（氏神さまの神の名）

大神の大前に、

畏み 畏みも白さく、

大神の氏子（家内安全を祈願する人の姓名）い、

予てより大神の神徳を崇め 尊び 仕え奉らくを、

見行し給いて、

大神の高き 貴き御恩頼を以て、

恤み給い 慈み給いて、

家内の親族は、

各も各も、

清き赤き真心に 誘い導き給いて、

日に異に勤しみ 励む 生業を 弥進めに 進め給いて、

過ち犯しけん 罪咎有らんをば、

見直し 聞直し 坐して、

諸々の 禍事有らしめず、

子孫の 八十連属に至るまで、

家門高く 立栄えしめ 給えと、

畏み 畏みも白す。

（よい日を選んで、日頃から神様を崇拜し、貴い御恵

みをいただいております氏子の某が、家内親族に至るまで正しい心を持って、それぞれの職業にはげむことができましよう、また、悪いことがおこらないように、子々孫々にいたるまで栄えますようにと氏神様にお祈り申し上げます。）

【学業成就の祝詞】

学^{まなび}の術^{みち}の事^{こと}を守り^{まも}給^{たま}う神^{かみ}等の御^み前に白^{もう}さく、
身^みを正^{ただ}し道^{みち}を行^{おこな}い、

理^{ことわり}を尽^{つく}し、事^{こと}を明^{あき}らめ、書^{ふみ}に述^のべ、

言^{こと}に挙^あげて世^よに幸^{さき}わえ坐^ましし、

此^この学^{まなび}の大人^{うし}等の恩^{みたま}、頼^{ふゆ}を辱^{かたじ}けなみて、

今日^{きょう}の生^{いく}ひの足^{たる}ひを以^{もち}て、

御饌^{みけ}御酒^{みさけ}種^{くさぐさ}々の物^{もの}を尊^{たてまつ}りて、

御祭^{みまつり}仕^{つか}え奉^{まつ}る事^{こと}を平^{たい}らけく安^{やす}けく聞^きこし食^めして

(学業成就を祈願する者の学校名)の学校に受

け学^{まな}ぶ

(学業成就を祈願する人の姓名)は、

直^{ただ}く正^{せい}しく勤^{いそ}しみ勉^{つと}めて、

設^{もう}けたる掟^{おきて}に背^{そむ}く事^{こと}無^なく、

悪^あしき行^{おこない}有^あらしめず、

異^けしき道^{みち}に迷^{まよ}わず、

日^ひに異^けに授^{さず}くる教^{おし}え言^{こと}を、

怠^{おこた}る事^{こと}なく誤^{あやま}つ事^{こと}なく、

朝^{あした}夕^{ゆう}に受^うけ習^{なら}う説^とき言^{こと}の、

解^{わか}り難^{がた}きは問^とい、知^しられざるは質^{ただ}し、

定^{さだ}めたる学^{まな}びの科^{しな}を、

悉^{ことごと}く学^{まな}び修^{おさ}めて、

顕^{うつつ}世^{しよ}に秀^{ひい}でたる功^{いさお}を顕^{あら}わし、

天^{あめ}下^{のした}に稀^{まれ}なる者^{もの}と仰^{あお}がれつつ、

其^その誉^{ほまれ}をし世^よに掲^かげむ事^{こと}は、

刺^さし立^たてし神^{さか}の上^ほ枝^えよりも高^{たか}く、

守^{まも}り恵^{めぐ}み幸^{さき}わえ給^{たま}えと、

恐^{かしこ}み 恐^{かしこ}み も白^{もう}す。

(学業の神たちの御教えの、御恵みに感謝し、今日の

吉き日に、某校で学ぶ某が、神様へのさまざまの供

え物をたてまつり、某が、成績をあげていくことが

できるようにと、お願い申し上げます。)

【商売開始・繁昌祈願祝詞】

掛巻も恐き、

（崇拝する商売繁盛に靈驗あらたかな神の名前）

大神の御前に、

畏み畏みも白さく、

（商売開始・繁昌を祈願する人の住所）の里の

（商売開始・繁昌を祈願する人の名前）い、

今回（商売の名前）の商業を営まんとす。

故れ爾に御饌御酒雑々の幣帛を備えて仕え奉らくを、

平かに安かに聞こし食し受け給いて、

諸の禍事無く、

速やかに若干の利益を与え給いて、

滞ることなく墮つることなく、

弥運びに運びて、

害もなく事もなく、

弥向栄に富み栄えしめ給えと、

畏み畏みも白す。

（某が、このたび何々の商売をはじめるにあたり、神様へたくさんなんお供え物をたてまつり、利益があり災難がふりかかることがないように靈驗あらたかな商業の守護神に、お願い申しあげます。）

【商売繁昌祈願の祝詞】

産土神と以ち斎く、

掛けまくも畏き（氏神様の名前）大神の大前に、

（この祝詞をとなえる人の姓名）恐み恐みも白さく、

（商売繁昌を祈願する人の姓名）い、

先祖より家の生業と営み来し（商売名）の商売

を、

此度其の手振りを更に拡張めて、

弥益々に広く大きく営み為さんと、

今日の生日の足日に豊御饌豊御酒種々の佳饗を捧

げ奉り、

斯く厳かに御祭仕奉りて、

広き厚き御恩頼を乞祈奉る状を、

平けく安けく聞こし食し嘉納い給いて、

営業に智深く、為しと為し、

計りと計る物に事に、

悉く幸有らしめ給い、

此の家の主人より家族・雇使う男・女に至るまで、

一心に忠実に切に勤しみ勉めて、

恵良恵良に笑らぎ饒わい、

四方八方より遠く来り求むる人々は、

斎い立てし五百枝真榊の葉よりも弥繁く、

日に異に弥向榮に富み榮えしめ給えと、
恐み恐みも白す。

（某が先祖代々続いてきた商売を、今度、さらに拡張し、ますます大きく経営しようと、吉日に、お供え物をたてまつり、産土神にお願い申し上げます。）